

第2章 宇都宮市の歴史文化資源の概要

1. 指定等文化財

本項では、文化財保護法、栃木県文化財保護条例、宇都宮市文化財保護条例によって指定、登録、認定等されている歴史文化資源について記載する。

(1) 指定等文化財

指定等文化財は、2024(令和6)年6月1日現在、473件の指定・登録文化財、12件の宇都宮市認定建造物の合計485件がある。宇都宮市認定建造物とは、宇都宮市文化財保護条例に基づく市独自の制度により認定される建造物であり、詳細は次項に記載する。

また、周知の埋蔵文化財包蔵地は672件確認されており、これらのうち18件は指定等文化財の史跡、残りは未指定文化財の遺跡・埋蔵文化財として計上している。なお、文化財の保存技術は確認されていない。

■指定等文化財の件数 ※2024(令和6)年6月1日現在

区分	種別	国指定・選定・認定	県指定	市指定	国登録	市認定	計
有形文化財	建造物	2	2	11	17	12	44
	美術工芸品(絵画)	0	37	116	0	—	153
	美術工芸品(彫刻)	2	9	33	0	—	44
	美術工芸品(工芸品)	1	44	28	0	—	73
	美術工芸品(書跡)	0	3	5	0	—	8
	美術工芸品(典籍)	0	0	1	0	—	1
	美術工芸品(古文書)	0	0	2	0	—	2
	美術工芸品(考古資料)	2	6	19	0	—	27
	美術工芸品(歴史資料)	0	0	27	0	—	27
無形文化財	演劇、音楽、工芸技術等	0	0	10	0	—	10
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	2	19	0	—	22
	無形の民俗文化財	0	1	2	0	—	3
記念物	遺跡	4	7	21	0	—	32
	名勝地	1	0	0	1	—	2
	動物・植物・地質鉱物	0	7	29	0	—	36
文化的景観	—	1	—	—	—	—	1
伝統的建造物群	—	0	—	—	—	—	0
合計		14	118	323	18	12	485

※「—」は制度自体が存在しないことを示す。

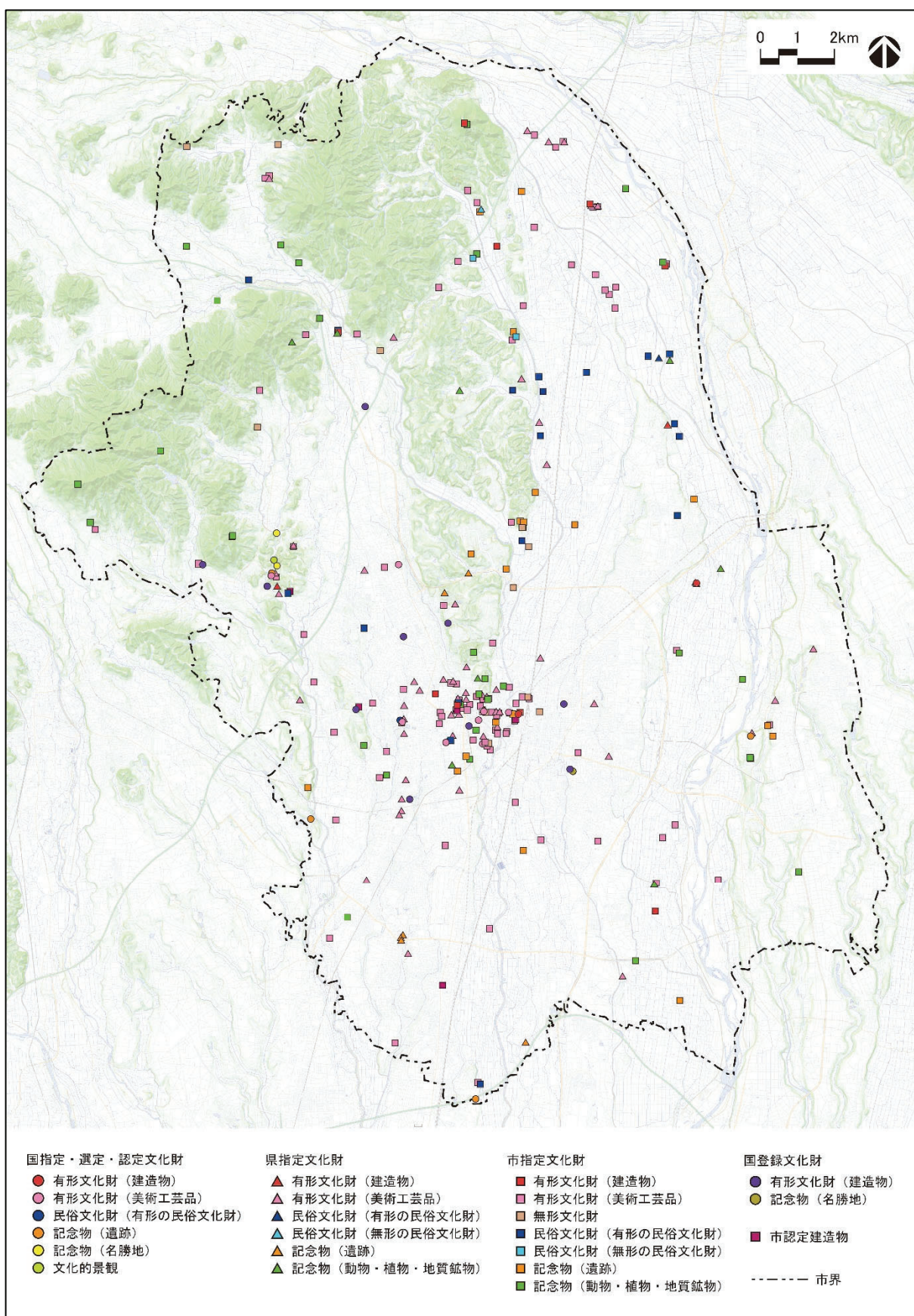
※大谷磨崖仏は、国指定重要文化財、国指定特別史跡の二重指定。野口雨情旧居は、国登録有形文化財、市認定建造物の二重指定。

※上記の他、重要美術品等ノ保存ニ関スル法律(昭和8年4月1日公布・施行)において認定された重要美術品が4件ある。

■周知の埋蔵文化財包蔵地の件数及び内訳 ※2024(令和6)年6月1日現在

区分	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近代	計
埋蔵文化財包蔵地	6	245	5	198	108	47	58	5	672

■ 指定等文化財分布図

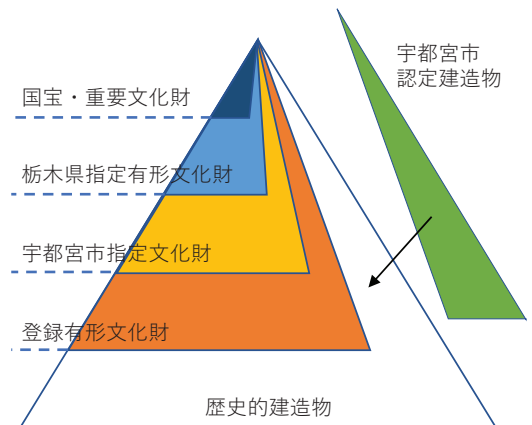


※ベース図は地理院地図 Vector より作成

(2) 宇都宮市認定建造物制度

「宇都宮市認定建造物制度」とは、2002(平成14)年に創設された市独自の制度であり、地域の歴史や文化を後世に伝えていく上で欠かすことのできない未指定の歴史的建造物を、市が宇都宮市文化財保護条例に則り「宇都宮市認定建造物」として認定するものである。

指定文化財などに匹敵する価値を有し、あるいは地域でその大切さを認知されながらも、従来の指定制度等の内容が所有者の意向に応じられない等の理由から、指定や登録による適正な保護と社会的評価を受けられない歴史的建造物を、柔軟な規制と手厚い支援で保護することを目的としている。



■ 宇都宮市認定建造物制度の概要

【対象】

・住宅や社寺などの建築物、橋やトンネルなどの土木構造物、煙突や塀などの工作物

【認定基準】

- ・建造より50年経過したもの
- ・本市の地域的特色を有するもの
- ・地域住民の生活文化に密着しているもの
- ・地域の歴史的景観に寄与するもの
- ・指定文化財となり得る価値を有するもの

【内容】

- ・認定期間は10年
- ・増改築にあたっては所有者と市教育委員会の事前協議が必要
- ・所有者の申請に応じて、保存修理費の補助、税制の優遇

■ 宇都宮市認定建造物一覧

名称	員数	所在地	認定年月日
光明山摂取院寶蔵寺不動堂（観音堂）	1棟	大通り	2003（平成15）年3月27日
渡邊家住宅主屋	1棟	大谷町	2003（平成15）年12月1日
渡邊家住宅西石蔵	1棟	大谷町	2003（平成15）年12月1日
渡邊家住宅門（表門）	1基	大谷町	2003（平成15）年12月1日
上野本家住宅見世蔵（店舗）	1棟	泉町	2014（平成26）年11月20日
上野本家住宅文庫蔵	1棟	泉町	2014（平成26）年11月20日
上野本家住宅住居	1棟	泉町	2014（平成26）年11月20日
上野本家住宅辰巳蔵	1棟	泉町	2014（平成26）年11月20日
上野本家住宅穀蔵	1棟	泉町	2014（平成26）年11月20日
野口雨情旧居	1棟	鶴田町	2018（平成30）年2月16日
旧芦谷家仮本陣	1棟	雀の宮3丁目	2019（令和元）年12月20日
旧芦谷家仮本陣門（高麗門）	1基	雀の宮3丁目	2019（令和元）年12月20日

■宇都宮市認定建造物に対する補助制度

名称	補助金額		補助金交付の対象	
	補助率	上限額	文化財の種類等	所有形態
認定建造物保存 修理費補助金	50%以内	300万円	認定建造物	個人，法人又は地域共有

2. 未指定文化財

未指定文化財は、宇都宮市歴史文化基本構想策定時に収集した歴史文化資源のうち、文化財保護法に基づく指定がされていないものに、周知の埋蔵文化財包蔵地とみや遺産を追加、保存・活用する具体的な対象がない歴史上の人物を除外し、把握を行った。

2024(令和6)年4月現在、975件の未指定文化財を把握しており、埋蔵文化財が全体の62.3%を占め、最も割合が大きい。

■未指定文化財の件数 ※2024(令和6)年6月1日現在

区分	種別	件数(件)	割合(%)
有形文化財	建造物	56	5.5
	美術工芸品(絵画)	0	0.0
	美術工芸品(彫刻)	9	0.9
	美術工芸品(工芸品)	3	0.3
	美術工芸品(書跡)	0	0.0
	美術工芸品(典籍)	0	0.0
	美術工芸品(古文書)	7	0.7
	美術工芸品(考古資料)	2	0.2
	美術工芸品(歴史資料)	33	3.3
	無形文化財	演劇・音楽・工芸技術等	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	65	6.4
	無形の民俗文化財	35	3.5
記念物	遺跡	48	4.8
	名勝地	9	0.9
	動物・植物・地質鉱物	6	0.6
文化的景観	—	6	0.6
伝統的建造物群	—	4	0.4
埋蔵文化財	—	629	62.3
文化財の保存技術	—	0	0.0
その他	—	63	6.2
合計		975	100.0

3. 関連する制度

(1) 日本遺産

「日本遺産(Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを、文化庁が認定するものである。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

本市では、2018(平成30)年5月に「地下迷宮の秘密を探る旅 大谷石文化が息づくまち宇都宮」が認定された。

■ストーリー

「地下迷宮の秘密を探る旅 大谷石文化が息づくまち宇都宮」
冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのだろう。
壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続く。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、しだいに方向感覚が失われていく。
江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間 89 万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していった。
大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を变幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了する。

■構成文化財

名称	所在地	指定等
多気山(多気城跡)	田下町	未指定
大谷の奇岩群(御止山)	大谷町	国名勝
大谷の奇岩群(越路岩)	田下町	国名勝
奇岩「天狗の投げ石」	大谷町	未指定
大谷寺洞穴遺跡	大谷町	未指定
大谷磨崖仏	大谷町	特別史跡・重要文化財
長岡百穴古墳	長岡町	県指定
ホテル山(トウヤ採石場)	田下町	未指定
カネホン採石場(高橋佑知商店)	大谷町	未指定
カネイリヤマ採石場跡地(大谷資料館)	大谷町	未指定
大谷石掘削道具一式	大谷町(大谷資料館)	未指定
軌道跡	栃木県宇都宮市	未指定
東武鉄道南宇都宮駅舎	吉野2丁目	未指定
渡邊家住宅	大谷町	市認定
屏風岩石材	大谷町	県指定
大久保石材店	大谷町	未指定
旧大谷公会堂	大谷町	国登録文化財
山の神祭り	地域一帯	未指定(民俗)
大山阿夫利神社	大谷町	未指定

名称	所在地	指定等
二荒山神社の石垣	馬場通り1丁目	未指定
カトリック松が峰教会	松が峰1丁目	国登録文化財
宇都宮聖ヨハネ教会聖堂	桜2丁目	市指定
宇都宮大学庭園	峰町	国登録文化財（名勝地）
栃木県中央公園の旧商工会議所遺構	睦町	未指定
星が丘の坂道	星が丘1丁目	未指定
旧篠原家住宅	今泉1丁目	国重要文化財・市指定
上野本家住宅	泉町	市認定
小野口家住宅	田野町	国登録文化財
芦沼集落	芦沼町	未指定
上田集落	上田町	未指定
西根集落	徳次郎町	未指定
立岩神社	大谷町	未指定
岩原神社	岩原町	未指定
宇都宮貞綱・公綱の供養塔	今泉3丁目	未指定
無事カエル	地域一帯	未指定（伝統工芸品）
岩本観音	新里町	未指定
ダイニング蔵 おしゃらく	宮園町	未指定
南宇都宮石蔵倉庫群	吉野町	未指定

（２）宇都宮市民遺産（みや遺産）

「宇都宮市民遺産制度」とは、2019(令和元)年に創設された市独自の制度であり、市民や地域に愛され、親しまれ継承されてきた歴史文化資源を、市が「宇都宮市民遺産」として認定するものである。

歴史文化資源を地域の宝として顕彰することで、後世への継承を期待するとともに、その継承活動を支援することにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

制度の愛称を「みや遺産」といい、歴史文化資源と保存・活用する活動をセットで認定する「総合型」と、歴史文化資源のみを認定する「資源型」がある。

■みや遺産一覧

	認定名称	所在地	地区	指定等
1	旧塙田村からの伝統的行事「おかりや」	宇都宮市塙田5丁目	本庁	
2	徳次郎智賀都神社例大祭付け祭り	宇都宮市徳次郎町	富屋	
3	徳次郎智賀都神社冬渡祭行事	宇都宮市徳次郎町	富屋	
4	旧仮本陣芦谷家建物・高麗門	宇都宮市雀の宮3丁目	雀宮	
5	戸祭大塚古墳・大ジノ古墳群	宇都宮市上戸祭町	宝木	
6	新石町火焰太鼓山車、南新町桃太郎山車	宇都宮市本丸町	本庁	
7	白沢宿のまちなみ	宇都宮市白沢町	河内	
8	田野町の八坂神社天王祭 花屋台巡行行事と伝統年中行事	宇都宮市田野町	城山	

	認定名称	所在地	地区	指定等
9	上横倉の獅子舞	宇都宮市上横倉町	富屋	市指定
10	野口雨情旧居	宇都宮市鶴田町	姿川	国登録, 市認定
11	悟理道の歴史をつなぐ伝統行事と神輿	宇都宮市宝木本町	国本	
12	岩本観音と地域の伝統行事	宇都宮市新里町	国本	
13	伝統作物エソジマモチ（江曾島糯）とその歴史をつなぐ「老農篠崎君功績碑」	宇都宮市江曾島町	陽南	
14	海道町天棚	宇都宮市海道町	豊郷	
15	旧上戸祭村の伝統行事	上戸祭2丁目	宝木	
16	東大堀の伝統行事「辻切り」	宇都宮市新里町	国本	
17	仁良塚の彫刻屋台	宇都宮市宝木本町	国本	
18	岡本城跡	宇都宮市中岡本町	河内	市指定
19	神郷地区の薬師堂の伝統行事	宇都宮市新里町	国本	
20	城山のシダレザクラ（古賀志の孝子桜）	宇都宮市古賀志町	城山	市指定

4. 歴史文化資源の特徴

(1) 有形文化財

①建造物

建造物の指定等文化財は44件あり、その内訳は、国指定2件、県指定2件、市指定11件、国登録17件、市認定12件である。

「旧篠原家住宅」(国指定)、「屏風岩石材」(県指定)、「カトリック松が峰教会」(国登録)や「小野口家住宅」(国登録)等をはじめとして、古代より宇都宮の北西部で採石されてきた大谷石を石蔵や主屋等の建材として使用した建造物が市内には数多く存在する。

市の中心部は、1945(昭和20)年の宇都宮空襲により、多くの歴史的建造物が焼失したが、古より宇都宮の人々の信仰の場であった「二荒山神社」(県指定)、江戸時代に建築された「延命院地蔵堂」(市指定)や「光明山撰取院寶蔵寺不動堂」(市認定)などの城下町内にあった寺社建築の建造物や、日光道中・奥州道中沿いに所在する、雀宮宿の仮本陣であった「旧芦谷家」(市認定)や徳次郎宿に隣接する「智賀都神社本殿」(市指定)などの宿場の様子が分かる建造物など、江戸時代の宇都宮の面影が今に残る。

1884(明治17)年に県庁が宇都宮町に開庁し、諸官庁、学校等が整備された。「宇都宮高校旧本館」(国登録)は、1893(明治26)年に竣工した建築物で、県都誕生期の様子を現在に伝えている。また、陸軍第14師団司令部関連の第66歩兵連隊の厨房関係施設として建てられた「宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫」(国登録)は、軍都としての側面を今に伝えている。

未指定文化財としては、大谷石を使用し、日本遺産の構成文化財の一つにもなっている「旧宇都宮商工会議所遺構」などが残っている。

②絵画

絵画の指定文化財は153件あり、指定等文化財全体で最多の約3割を占めている。内訳

は、県指定 37 件、市指定 116 件である。

作者別では、高久靄厓や田崎草雲の作品が多い。この二人は江戸時代、江戸で谷文晁らに学んだ人物で、特に靄厓は文晁の高弟として南画に傾倒し、その名声を高めた。これらの作者の絵画は、城下町でありかつ日光道中・奥州道中の2つの街道の追分の地として、多くの人・物・情報が行き交い、芸術文化が花開いた江戸時代の本市の様子を今に伝えている。

③彫刻

彫刻の指定文化財は 44 件あり、その多くが仏像である。内訳は、国指定 2 件、県指定 9 件、市指定 33 件である。

「大谷磨崖仏」(国指定)は、本尊の石造千手観音菩薩立像(大谷観音)、石造伝釈迦如来および両脇侍像、石造伝薬師如来及び両脇侍像、石造伝阿弥陀如来及び両脇侍像の合計 10 体の仏像で構成されている。いずれも凝灰岩(大谷石)の岩山にできた自然の岩窟を利用し製作されている。また、この世に異変が起こる前に汗をかくという「汗かき阿弥陀」と呼ばれている一向寺の「銅造阿弥陀如来坐像」(国指定)や「大豆三粒の金仏」として知られる善願寺の「銅造盧舎那仏坐像」(市指定)など、伝説・伝承が残る仏像などの指定文化財がある。

仏像以外で唯一指定されているものとして、天下一関白流御神獅子舞保存会が所有する「獅子頭」(市指定)がある。

未指定文化財としては、太平洋戦争の戦没者供養と世界平和を祈るために、1948(昭和 23)年より飛田朝次郎と大谷の石工によって制作された、高さ 27メートルにもおよびる観音像「平和観音」があり、現在も多くの人々が訪れている。

④工芸品

工芸品の指定文化財は 73 件あり、その内訳は、国指定 1 件、県指定 44 件、市指定 28 件である。

本市で工芸品として指定されている歴史文化資源のうち半数以上が刀剣である。また、そのうち鎌倉時代の作「刀 無銘(伝兼光)」は国の重要美術品に認定されている。

「鉄塔婆」(国指定)は、中世の本市を治めていた宇都宮氏の 8 代城主貞綱が、1312(正和元)年、亡き母の 13 回忌の供養のために鑄造し奉納したものである。鉄製の塔婆は全国的に類例がなく、貴重である。

未指定文化財としては、1942(昭和 17)年に製造され、1955(昭和 30)年代に東北線を走った「電気機関車 EF577」がある。駅東公園に保存されており、明治時代に鉄道が開通して以降も、本市が陸上交通の要衝であったことを示している。

⑤書跡

書跡の指定文化財は 8 件あり、その内訳は、県指定 3 件、市指定 5 件である。

寺院の建立や鉄塔婆の鑄造、汗かき阿弥陀の造像、寺院への土地の寄進、公事や諸役の免除について記した「一向寺文書(甲・乙二軸)」(県指定)や、足利尊氏が諸国の寺社保護を訴えた「紙本墨書掛軸(足利尊氏書簡)」(市指定)等、本市の仏教に関わる資料が残っている。

また、近世歌学の先駆けである渡辺茂右衛門馮(戸田茂睡)によって書かれた「紙本墨書 戸田茂睡筆渡邊家三文裏銭文由緒記一卷附銀銭三箇」は、国の重要美術品に認定されている。

⑥典籍

典籍の指定文化財は、白山神社に収められている「大般若波羅密多經」(市指定)の1件である。中国唐時代に、仏典を求めて長安からインドに赴いた時の旅行記『大唐西域記』の著者として知られる玄奘が訳した 600 卷からなる般若經典の集大成で、空の思想を説いた大乘仏教の基本經典の1つである。

⑦古文書

古文書の指定文化財は、「宇都宮領岡本村太閤検地帳」(市指定)と「下小倉元和検地帳」(市指定)の2件であり、いずれも本市の検地に関わる古文書である。

未指定文化財としては、河内地区を中心に「上岡本庄屋古文書」や、白沢宿本陣を勤めた宇加地家の「宇加地家文書」等が残っている。

⑧考古資料

考古資料の指定文化財は 27 件あり、その内訳は、国指定2件、県指定6件、市指定 19 件である。

縄文時代前期の大規模集落跡である「根古谷台遺跡」(国指定)からは石製の装身具や石匙・石鏃が発見され、「根古谷台遺跡土壙出土品」として国指定重要文化財に指定されている。

また、13 世紀末に芳賀高俊が築城したと伝えられている「飛山城跡」(国指定)から出土した、「烽家」と墨書された須恵器である「飛山城跡出土墨書土器(烽家銘)」は、県指定文化財に指定されている。ここに書かれた「烽家」という文字の「烽」は「のろし」のことであり、「家」は「馭家」や「郡家」等の施設を意味し、飛山の地に緊急の連絡手段である「のろし」を上げる施設があったことを意味する。飛山の対岸には都と陸奥国を結ぶ東山道が通っており、古代から宇都宮が要衝の地であったことを物語っている。

この他に、「本村2号墳出土品」(市指定)や「城南3丁目遺跡1号墳出土品」(市指定)など、宇都宮南部の古墳から出土した遺物が指定文化財となっている。

未指定文化財としては、「刈沼遺跡出土の土偶・石剣・石棒」や塚山古墳から出土した「鹿が描かれた円筒埴輪」などがある。

⑨歴史資料

歴史資料の指定文化財は 27 件あり、いずれも市指定文化財である。

江戸時代に「寛政の三奇人」として知られ、『山陵志』を著した蒲生君平に関係する書簡が多く残る他、江戸時代の宇都宮城ならびにその城下の様子を絵図面として記録した「宇都宮城本丸將軍家御泊城ノ節ノ建物ノ図」(市指定)や「宇都宮御城内外絵図」(市指定)等が、当時の宇都宮城下の状況を表現している。

未指定文化財としては、宇都宮が戊辰戦争の戦場となったことを伝える、墓碑「戦士死十七名霊」をはじめとした戊辰戦争に関連した慰霊碑等が多く残されている。

(2) 無形文化財

無形文化財の指定文化財は 10 件あり、いずれも市指定文化財である。

「上横倉の獅子舞」(市指定)と「飯山の獅子舞」(市指定)は、関白町に伝わる「関白獅子舞」(県指定)を祖とする「一人立ち三匹獅子舞」で、お盆や二百十日などに「悪疫退散」「家内安

全」等を願って行う伝統行事であり、宇都宮市北部の農村部で今も継承されている。

市の中心部に所在する二荒山神社に関わる行事としては、「二荒山神社の神楽」(市指定)や、県内唯一の田楽舞で、宇都宮二荒山神社の春渡祭(オタリヤ・1月15日)・田舞祭(タマイサイ・5月15日)・冬渡祭(オタリヤ・12月15日)に毎年奉納される「堀米の田楽舞」(市指定)が指定されている。

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

有形の民俗文化財の指定文化財は22件あり、その内訳は、国指定1件、県指定2件、市指定19件である。また、市指定文化財のうち、屋台が9件、天棚が5件を占めている。

石那田八坂神社天王祭付祭や徳次郎智賀都神社付祭礼で繰り出される6台の彫刻屋台は、江戸時代の終わりから明治時代にかけて、磯邊敬信や後藤正秀らによって作られた。現在は、市の有形の民俗文化財に指定されている。

天祭で設置される天棚は、江戸時代後期に盛んとなった。天棚製作に関する記録は、最も古いもので1771(明和8)年、新しいもので1882(明治15)年で、こちらも後藤常吉・正秀等の屋台の彫刻師によって作られた。市内の天棚は、架設組み立て式の2階建てで、総2階造りのものと一部2階造りのものもある。いずれも彫刻が組み入れられており、祭壇は2階部分に設置されている。

未指定文化財としては、上記の指定文化財の屋台や天棚の他にも市内各地に50以上が保存されている。また、寺社に奉納された絵馬や大谷石の採石用仕事着、上河内民俗資料館所蔵の農具等が残されている。

②無形の民俗文化財

無形の民俗文化財の指定文化財は3件ある。その内訳は、県指定が「関白獅子舞」の1件、市指定が「天下一関白流神獅子」・「天下一関白流御神獅子舞」の2件であり、羽黒山・高館山・本山等の北部を中心に行われている伝統行事である。

「関白獅子舞」(県指定)は、今昔物語の「芋がゆ」の話で知られる鎮守府将軍であった藤原利仁の伝説によるもので、その昔利仁が下野の地の賊を平定し、この地で亡くなった時、その葬式に行ったのがこの獅子舞の始まりといわれている。この獅子舞は、栃木県下に広く分布する関白流獅子舞の家元ともいわれている。

未指定文化財としては、二荒山神社の祭神である豊城入彦命がまちを渡御する鳳輦渡御や流鏝馬が行われる「菊水祭」、お札やだるま等の縁起物や正月の松飾り、注連飾りを境内で焚き上げる「オタリヤ」等の二荒山神社に由来する祭礼が多く残っている。

(4) 記念物

①遺跡

遺跡の指定文化財は32件あり、その内訳は、国指定4件、県指定7件、市指定21件である。

縄文時代前期の「根古谷台遺跡」(国指定)は、広場の中心に墓域があり、周辺に大型の

建物群が配置された拠点集落である。

古墳時代中期の「笹塚古墳」(県指定)や「塚山古墳」(県指定)は約 100mの大型前方後円墳で、宇都宮の南部に築造されるが、古墳時代後期になると、「瓦塚古墳」(市指定)や「大塚古墳」(県指定)等、宇都宮の北部丘陵上に多数の古墳群が築造された。

飛鳥・奈良時代には、官道である東山道によって都と陸奥国が結ばれた。この「推定東山道」に隣接する「上神主・茂原官衙遺跡」(国指定)は、古代の河内郡の役所跡で、遺跡内にある瓦葺建物跡からは人名を刻んだ瓦が多量に出土している。このことは、飛鳥・奈良時代に本市が律令国家体制に組み込まれていったと同時に、陸上交通の要衝の地にあったことを意味している。

中世になると、宇都宮氏の重臣である芳賀氏により鬼怒川左岸の段丘上に「飛山城跡」(国指定)が築かれた。

②名勝地

名勝の指定等文化財は2件あり、国指定が「大谷の奇岩群 御止山 越路岩」の1件、国登録が「宇都宮大学庭園」の1件である。

「大谷の奇岩群 御止山 越路岩」(国指定)は、大谷地域に厚さ300mにわたり堆積する緑色凝灰岩が自然の風雨や大谷石採石によりできた奇岩であり、田園地帯の中に屹立する姿から「陸の松島」とも呼ばれてきた。近代以降は、紀行文、絵葉書、絵画、俳句等を通じて全国に紹介され、大谷地域が景勝地として知られるようになった。

未指定文化財としては、「材木岩」や「センニン洞」等の奇岩群がある。

③動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物の指定文化財は 36 件あり、そのうち 32 件が植物である。内訳は、県指定7件、市指定 29 件である。

植物は、寺社に所縁をもつ智賀都神社の「けやき」(県指定)等の老樹や、樹齢約 400 年と推定される宇都宮城ゆかりの名木「旭町の大きいちょう」(市指定)が所在する。大きいちょうは、1945(昭和 20)年の宇都宮空襲により黒焦げになりながらも、力強く根を張り生きながらえた姿が、戦後復興を目指す人々の心の支えとなり、それが本市のシンボルとして「市の木」になった由縁ともいわれている。

動物は、「クロコムラサキ及びその生息地」(市指定)や「ハッチョウトンボ及びその生息地」(市指定)、「ムカシトンボ及びその生息地」(市指定)、「戸祭山緑地のトウキョウサンショウウオ個体群及びその生息地」(市指定)が指定されている。

未指定文化財は、全てがイチョウやカシ等の植物である。

(5) 文化的景観

文化的景観の選定文化財は、2024(令和6)年に選定された「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」の1件である。

大谷地域で産出される大谷石は、海底火山の噴出物によって海底で生成された緑色凝灰岩であり、軟質で加工が容易であったことから、古くは古墳の石室の材料として切り出され、江戸時代以降は屋根や壁等の建築用材として重宝されてきた。採掘産業は現在まで続いており、自然と人間との関わりが、奇岩や採石場、軌道跡、河川、磨崖仏、神社仏閣、大谷石建造物等か

らなる独特の景観を生み出している。

未指定文化財としては、重要文化的景観の重要な構成要素でもある「大谷資料館(カネイヤマ採石場)」や「カネホン採石場(高橋佑知商店)」といった採石場が挙げられる。また、大谷地域より北の徳次郎町にある「徳次郎石石山(石切場跡)」からは、大谷石と同じ凝灰岩だがより細工に適した徳次郎石が江戸時代から採石されており、石蔵や石塔、石仏類に加工されてきた。

(6) 伝統的建造物群

未指定文化財として、「白沢宿のまちなみ」があり、昔ながらの屋号が掲げられる等、奥州街道の宿場町としての往時の面影が感じられる。また、「西根集落」や「芦沼町の大谷石建造物群」、「上田町の玉石積み水路と大谷石建造物群」といった大谷石の建造物群が残っている。

(7) 埋蔵文化財

本市における埋蔵文化財包蔵地の数は672件で、集落跡355件、古墳・古墳群・塚161件、城館跡36件、散布地等120件が鬼怒川・田川・姿川など南流する幾筋もの川に挟まれた安定した台地上に多く分布する。

未指定文化財としては、宇都宮南部にある古墳時代の「茂原古墳群(茂原権現山古墳群、大日塚古墳、茂原愛宕塚古墳群)」や、近年都市公園として整備され、2006(平成18)年度に櫓が復元された「宇都宮城跡」(宇都宮城址公園)等が挙げられるほか、みや遺産に認定された「大ジノ古墳群」がある。

(8) 文化財の保存技術

指定等文化財、未指定文化財共に、該当する歴史文化資源は確認されていない。

(9) その他

文化財保護法上の類型に当てはまらない、本市の人々の生活又は生業、風土により形成されてきたその他の歴史文化資源として、未指定文化財の街道や宿場町、軌道跡、河岸跡、用水、土地にまつわる伝承等が挙げられる。

「日光道中」「奥州道中」の街道沿いの宿場町である「雀宮宿」や「宇都宮宿」、「上徳次郎宿」・「中徳次郎宿」・「下徳次郎宿」からなる徳次郎宿、「白沢宿のまちなみ」には、本陣・脇本陣・仮本陣跡や宿場に関する伝承等が残っている。

「立岩駅跡」、「瓦作駅跡」、「荒針停車場跡」といった軌道跡は、明治時代以降、トロッコや軽便鉄道による大谷石の運搬のために敷設された。これらの輸送方法は1945(昭和20)年代以降になるとトラック輸送にとって代わられたが、現在でも道路として使用され、日本遺産の構成文化財となっており、大谷地域の散策路の一部としても活用されている。

鬼怒川流域の「石井河岸跡」や姿川流域の「幕田河岸跡」は、江戸時代以降に水運による物資輸送が盛んに行われた歴史を伝えている。また、河川に関わる歴史文化資源として、江戸時代に二宮尊徳の設計で田川の水を堰き止めて整備した「宝木用水」が残る他、地名の中にも河川に由来するものがあり、「上河原」をはじめとした市内の河原がつく地名は、元々河原地であったことからその名がつけられたと考えられる。

第3章 宇都宮市の歴史文化の特徴

1. 歴史文化の特徴の抽出

市内に散在している歴史文化資源を、俯瞰的にまとまりをもって保存・活用するため、第1章、第2章を踏まえ、市固有の歴史や文化にまつわる地域的な特徴を抽出する。

宇都宮市歴史文化基本構想では、8つの歴史文化の特徴を整理し、特徴に関連する文化財群について分かりやすく伝えるため〈1〉～〈8〉の「エイト・ストーリー」を設定している。本計画では、市民への周知も進んでいる、この「エイト・ストーリー」を歴史文化の特徴として整理する。

■ 宇都宮市の歴史文化の特徴

	古代	中世	近世	近代	現代
ゼネラル ストーリー	〈1〉今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや				
時代を貫く ストーリー	〈2〉文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや				
	〈3〉2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや				
時代の特色を表す ストーリー	〈4〉古代から現代まで 大谷石がつくり繋いだ石のまち うつのみや				
	〈5〉古代国家を支えた下毛野氏 基盤の地 うつのみや		〈6〉徳川将軍も泊まった華やかな城下町 うつのみや		
				〈7〉二度の戦災をたくましく生き 抜いたまち うつのみや	
	〈8〉農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや				

2. 歴史文化の特徴の概要

(1) 今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや

日本最大の面積を誇る関東平野の北端に位置するこの地は、都市の文化と多様な自然が入り交じり、豊かな自然の恵みを育むとともに、多様な文化が出会い新たな文化を生み出してきた。

南北に流れる幾筋もの川に挟まれた安定した台地を生活の場とし、すでに4～3万年前には人が住み始め、石器を使ってイノシシやシカなどの中小動物の狩猟を行っていた。その後、縄文時代になると大型の建物が墓域を囲む、根古谷台遺跡等の拠点的なムラが登場した。古墳時代には田川沿いに豪族が居館を構えこの地域を治め、飛鳥・奈良時代には河内郡の中心となる役所跡が上三川との境に設置され、律令国家体制に組み込まれていった。

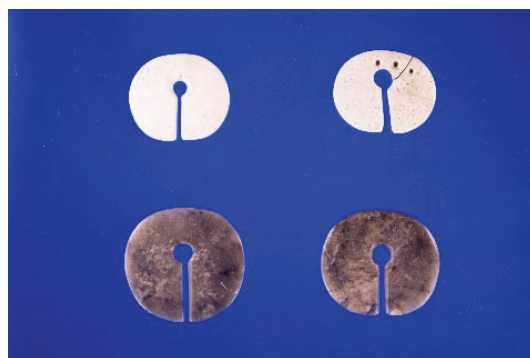
中世になると、この河内郡内の一つのムラであった池辺郷内にあった宇都宮明神(二荒山神社)と、神官領主宇都宮氏の居城(宇都宮城、多気城等)を中心に町が栄え、更に近世には、徳川幕府の譜代大名が日光道中と奥州道中の分岐点である宇都宮の地を治め、近世の城下町として発展し、将軍の日光社参や参勤交代の大名行列をはじめとする多くの人々が行き交う町となった。現在の宇都宮の中心市街地の骨格は本多正純の時代に形づくられた。

更に、近代に枋木町から宇都宮町に県庁が移ったことにより、政治や商業の中心となり、より多くの人々が集住し、現在は50万人の暮らす中核市に指定され、北関東最大の都市となった。

本市は自然災害が少なく水資源にも恵まれ、安心して暮らせる「住みやすいまち」である。



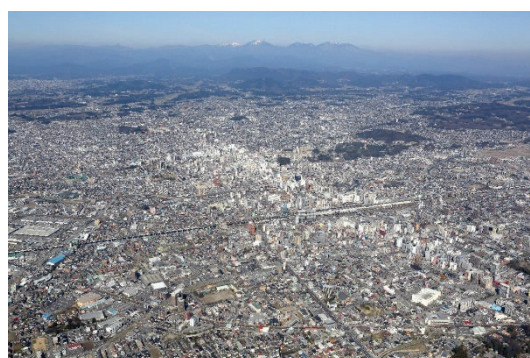
根古谷台遺跡



根古谷台遺跡墓壙出土品



多気城跡



宇都宮市街地空撮

(2) 文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや

二荒山神社の社務職¹を兼ねこの地を治めていた宇都宮氏は、鎌倉幕府の要職を務めたほか、独自の和歌集を作るなど文武に秀でた武将であった。

3代朝綱は、源頼朝の挙兵を助け、鎌倉幕府の樹立に多大な貢献をし、頼朝から宇都宮明神檢校²の立場を認められ、宇都宮氏の名を始めて名乗った。5代頼綱(後の蓮生)は、当代随一の歌人藤原定家と親交があり、出家して京都に居を構えた際、その山荘の襖に貼る色紙和歌を定家に百首選ばせた。これが後の「百人一首」のもとになったと言われる。宇都宮氏は独自に宇都宮歌壇を形成し、「新式和歌集」を編纂するなど文化に対する造詣が深かった。8代貞綱は、元軍の襲来を迎え撃つ日本の命運がかかった戦いにおいて約6万人の軍を率いる日本の総大将として九州に出陣した。9代公綱は、知略に富んだ楠木正成と戦い、「坂東一の弓矢とり」と評され、武勇に秀でた武将であった。10代氏綱は、足利尊氏に認められ、上野(群馬県)・越後(新潟県)の2か国の守護職を務めるなど、関東で強い力をもった。

このように宇都宮氏は、軍事的にも文化的にも栄華を極めるが、22代国綱の代に豊臣秀吉により改易³され、約500年にわたるその歴史に幕を下ろした。宇都宮氏は近世まで残ることができなかったが、宇都宮氏の旧臣たちは土着し、その後の地域の発展を支えた。また、宇都宮氏が種をまいた「百人一首」は現代に引き継がれ、多くの人々に愛されている。

市内には、宇都宮氏が戦国末期に小田原北条氏に対抗するために本拠とした関東最大級の山城である多気城や、宇都宮氏の重臣であった芳賀氏が鬼怒川沿いに築いた飛山城など、宇都宮氏の一族や家臣が築いた城跡が数多く確認されており、宇都宮氏の栄華の一部を今に残し伝えている。



宇都宮頼綱(蓮生)



二荒山神社



宇都宮貞綱・公綱の墓

¹ 神社の事務全般をつかさどった神職の長。

² 平安時代・鎌倉時代に置かれた寺院や荘園の事務の監督役職名。

³ 領地を没収し、大名をとりつぶすこと。

(3) 2つの街道の追分，水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや

古代には都と陸奥国を結ぶ「東山道」を通して坂上田村麻呂や源義家が東北平定に向かい、中世には鎌倉と奥州を結ぶ「奥大道」を通して源頼朝や豊臣秀吉が宇都宮に立ち寄り、戦勝祈願や宇都宮仕置を行い、近世には江戸を起点とした五街道のうちの「日光道中・奥州道中」の2つの街道の追分の地となり、徳川将軍や参勤交代の大名の宿泊所として多くの人と物が行き交った。

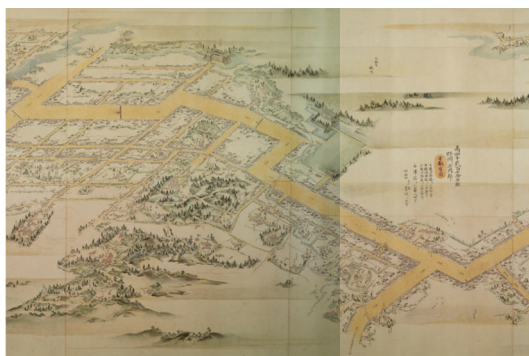
近代以降は、東京を起点とした国道4号線が通り、東北地方に向けての陸上輸送の大動脈となるなど、この地は常に日本の中心部と東北を結ぶ主要幹線がとおる陸上交通の要衝の地であった。

また近世になると鬼怒川沿いに河岸がつくられ、下野諸藩や会津藩等の年貢米などを江戸に送るなど水上輸送の重要な役割を果たしていた。その中の1つ、板戸河岸跡を伝えるものとして、現在「川の一里塚」が設置されている。明治時代には大宮から宇都宮までの鉄道が開通し大量物資輸送を担うようになり、水上輸送から鉄道輸送にその主役の座を譲る。なお宇都宮駅は駅弁発祥の地とも言われている。

このように本市は、街道、河川、鉄道を通じて、いつの時代にも人・物・情報が行き交い、その結果、新しい芸術文化や技術などを吸収し、宇都宮歌壇が生まれ、我が国器械製系の先駆となる大疇商舎が造られるなど、常に変化しながら発展してきたまちである。



東山道の遺構



『日光道中間延絵図』5巻之内4宇都宮宿
(東京国立博物館蔵、画像提供：東京国立博物館)



白沢宿



川の一里塚 (板戸町)

(4) 古代から現代まで 大谷石がつくり繋いだ石のまち うつのみや

大谷石は本市の人々にとって古より身近に触れることができる存在であった。この地に住む人々は、その石質の特質を見抜き、竪穴住居のカマドや横穴式石室の石材として使ったほか、白肌を露出する石山に大谷観音等の摩崖仏を彫り人々の安寧を願った。

江戸時代には、宇都宮城の御用石として価値づけられ、二荒山神社の石垣修築にも用いられた。さらに時代が進むと、大谷石の建材としての需要から採石産業が確立し、長年の採掘により掘り残された石切場・採石場と、自然の奇岩群との人工と自然が織りなす固有の景観が今に残る。

近代以降、加工がしやすく、耐火性に優れた石材であることから、フランク・ロイド・ライト設計の旧帝国ホテルやマックス・ヘンデル設計のカトリック松が峰教会等、公共建築や耐火性の高い建築などにも用いられ、高度成長期には、土木構築材などに使われ都市の形成を支えた。

本市の人々は、大谷石を変幻自在に使いこなし、今も「石」と共に生きている。



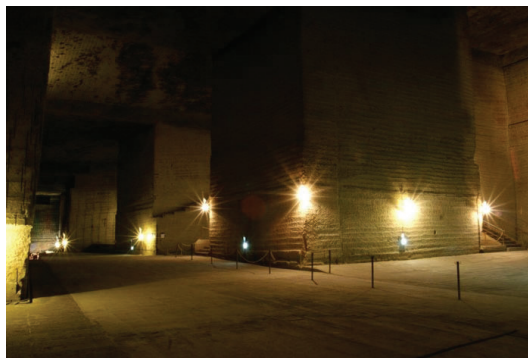
二荒山神社の石垣



大谷の奇岩群（御止山）



(左)大谷観音 (右)カトリック松が峰教会



大谷資料館（カネイリヤマ採石場）

(5) 古代国家を支えた下毛野氏基盤の地 うつのみや

この地に古墳文化がもたらされて以来、多くの古墳が造られた。中でも注目されるのが倭の五王の時代(5世紀)に築かれた市内最大の笹塚古墳である。この古墳の近くには豪族の居館跡や同時代の集落跡も発見されている。

塚山古墳群は5世紀後半から6世紀初頭にかけての支配者の墓と考えられており、埴輪棺等が存在していたことが確認されている。

『日本書紀』には二荒山神社の主祭神豊城入彦命は「上毛野君・下毛野君の祖」であると記され、別の書物にはその子孫の奈良別君が仁徳天皇の時代(5世紀)に下毛野国造に任ぜられたと書かれたものもある。5世紀に築造された笹塚古墳と下毛野氏との間に何らかの関係があることを想像させる。そして、その子孫である下毛野古麻呂は、国の根幹となる大宝律令の作成に携わった人物で、都において活躍する。

古代の河内郡は、この下毛野氏が基盤とした地であり、河内郡の役所と考えられる上神主・茂原官衙遺跡は、古代の官道である東山道に隣接し、現在の宇都宮と上三川町の两市町にまたがる場所に位置する。



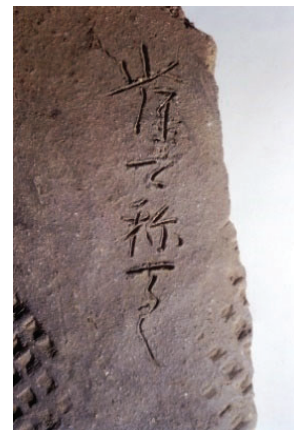
笹塚古墳



上神主・茂原官衙遺跡



塚山古墳群



上神主・茂原官衙遺跡から出土した人名文字瓦（雀又稱万呂と記載）

(6) 徳川将軍も泊まった華やかな城下町 うつのみや

宇都宮城は、川越城、古河城に次いで将軍が日光社参をする際に泊まった城で、合計19回も将軍家が宿泊している。また、宇都宮城は、伊達政宗など外様大名に対する押さえの城として代々譜代大名が入封⁴する軍事・交通上の重要拠点であった。本多正純は、宇都宮城とその城下の整備を行い、奥州道中の付け替え等の町割りを大幅に変え、近世の城下町としての基盤を整えた。現在の宇都宮は、この正純が整備した町割りがベースとなっている。正純は1622(元和8)年の徳川秀忠日光社参後に突然改易となるが、これを題材とした『宇都宮釣り天井』伝説は、正純が将軍の暗殺を企てたとする創作で多くの講談や歌舞伎の題材とされた。

当時の宇都宮城下には約1万人が住んでいたと言われ、日光・奥州道中の追分となる伝馬町周辺には、本陣や問屋場、旅籠が軒を連ねていたほか、日野町、紺屋町、鉄砲町、肴町など様々な業種の人々が集積して城下を形成していた。二荒山神社の菊水祭付祭は、各町から屋台や山車がくり出され大いに賑わい、江戸時代の「日本国中御祭番付」で最上位に名を連ねていた。近年、市民の手により火焰太鼓山車や桃太郎山車が復活されるなど、今もそのDNAは引き継がれている。



宇都宮城跡



宇都宮城内外絵図



(左)宇都宮城主戸田氏の墓所 (右)伝馬町屋台



二荒山神社 菊水祭の鳳輦渡御の様子

4 土地を与えられた大名がその領地に入ること。

(7) 二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや

一度目は、1868(慶応4/明治元)年に勃発した戊辰戦争で、宇都宮藩が新政府側につき、旧幕府軍と戦った。この時、宇都宮のまちは戦火に包まれ大きな被害を被った。その後文明開化により宇都宮の町並みも近代的な造りとなり、1884(明治 17)年には栃木町から宇都宮町に県庁が移転し、名実共に県の政治・経済の中心となる。

日露戦争後の 1907(明治 40)年には、陸軍第 14 師団の宇都宮移駐が決定したことにより、多くの人々が宇都宮に集まり都市化が進み、市内各所に軍の関連施設がつくられた。第 66 歩兵連隊の厨房関係施設は、宇都宮中央女子高赤レンガ倉庫として残っている。太平洋戦争が勃発すると、市内に中島飛行機製作所や日本製鋼など次々と軍需工場が進出した。

二度目は、太平洋戦争が終わりに近づいた 1945(昭和 20)年 7 月 12 日、米軍機により宇都宮が空襲を受け、市街地の大半が焼失した。八幡山公園内には特殊地下壕が残っている。戦後、市民の強いエネルギーにより復興が進められた。この時の宇都宮空襲で黒こげになった旭町の大いちょうが、復興のシンボルとして人々の心の支えとなった。いちょうが市の木となった由縁である。ちなみに終戦後、第 14 師団の中国からの帰還兵が本場の餃子を持ち帰り、宇都宮餃子のルーツとなったと言われている。



宇都宮中央女子高赤レンガ倉庫



八幡山の特殊地下壕



宇都宮空襲により焼失した市街地 (中島みどり氏撮影)



旭町の大いちょう (左：現在の様子、右：空襲後の様子)

(8) 農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや

江戸時代の初め、宝木台地は、水はけの良い地質のため稲作に適さない土地であったが、江戸時代の終わりの頃に「宝木用水」が完成し21万坪の水田が宝木台地に広がった。また、明治時代には、宝木用水から分水して江曾島まで流れる用水が完成し、「新川」と名付けられた。この人工の川はさらに延伸され、姿川に合流する。現在でもこの用水は農業用として一部が使われているほか、雨水を処理する排水路等、市民に身近な川として今も流れ続けている。

本市の田園地帯では、「風雨順調・五穀豊穡」を願って様々な伝統行事が行われている。特に北部を中心に行われている関白獅子舞や宗円獅子舞等の獅子舞は、雄2匹、雌1匹からなる「一人立ち三匹獅子舞」で、毎年盆や二百十日に、あるいは道や橋が完成した時などに「悪疫退散」や「家内安全」、「風雨順調」などを願って行われている。また、太陽や月をはじめとする神仏に、「風雨順調・五穀豊穡」などを祈願する天祭は、天棚を設置し、念仏を唱えながら祭壇の周囲を回るもので、江戸時代後期に盛んとなり、50カ所以上の地に存在していたことが知られている。日光街道沿では、石那田八坂神社天王祭付祭や徳次郎智賀都神社付祭礼でそれぞれ6台の彫刻屋台が繰り出され、地域の一大行事となっている。これらの行事は、地域の人々の結びつきを強め、地域の一体感を生み出している。



関白獅子舞



宗円獅子舞



東下ヶ橋天棚



徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台

第4章 宇都宮市の歴史文化資源の保存・活用に関する現状

1. 歴史文化資源に関する既往の把握調査

(1) 埋蔵文化財調査

市内には 600 ヶ所以上の埋蔵文化財包蔵地があり、開発行為等により、やむをえず現状のまま保存できない場合に、工事に先立ち発掘調査を行って遺跡の記録を残している。1984(昭和59)年から2023(令和5)年までに、次の報告書を作成している。

■埋蔵文化財報告書一覧

No	報告書名	報告年	地区
1	牛塚古墳	1984(昭和59)年	雀宮
2	竹下浅間山古墳	1976(昭和51)年	清原
3	飛山城跡	1977(昭和52)年	清原
4	宇都宮市瑞穂野団地遺跡	1978(昭和53)年	瑞穂野
5	権現山北遺跡	1979(昭和54)年	雀宮
6	水道山瓦窯跡群発掘調査概要報告	1981(昭和56)年	宝木
7	水道山瓦窯跡群	1982(昭和57)年	宝木
8	旭陵遺跡	1982(昭和57)年	本庁
9	聖山公園遺跡Ⅰ - 昭和57年度発掘調査概報 -	1983(昭和58)年	姿川
10	宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書 宇都宮の遺跡	1983(昭和58)年	—
11	針ヶ谷新田古墳群	1983(昭和58)年	雀宮
12	上の原古墳群・向山根遺跡・二ヶ山遺跡 - 東京電力西宇都宮変電所等建設に伴う埋蔵文化財包蔵地に関する調査報告書 -	1983(昭和58)年	城山, 国本
13	鶴舞塚古墳	1984(昭和59)年	雀宮
14	聖山公園遺跡Ⅱ - 昭和58年度発掘調査概要 -	1984(昭和59)年	姿川
15	駒生道下塚 - 宇都宮市立仮称第58小学校敷地内発掘調査報告 -	1985(昭和60)年	宝木
16	権現山古墳 - 北山古墳群調査報告Ⅰ -	1985(昭和60)年	豊郷
17	稲荷古墳群	1985(昭和60)年	姿川
18	聖山公園遺跡Ⅲ - 昭和59年度発掘調査概要 -	1985(昭和60)年	姿川
19	瓦塚古墳群・日満遺跡 - 長岡ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財調査報告	1985(昭和60)年	豊郷
20	上欠南遺跡	1986(昭和61)年	姿川
21	聖山公園遺跡Ⅳ	1986(昭和61)年	姿川

No	報告書名	報告年	地区
22	向山根遺跡	1987（昭和62）年	城山
23	上の原8号墳	1987（昭和62）年	城山
24	聖山公園遺跡Ⅴ	1988（昭和63）年	姿川
25	関道遺跡	1988（昭和63）年	陽南
26	飛山城跡Ⅱ－飛山城跡追加指定申請に伴う発掘調査報告－	1989（平成元）年	清原
27	竹下遺跡Ⅱ－竹下町自治公民館建設に伴う発掘調査報告－	1989（平成元）年	清原
28	茂原古墳群	1990（平成2）年	雀宮
29	前田遺跡－宇都宮市立上戸祭小学校建設に伴う発掘調査報告－	1991（平成3）年	本庁
30	下桑島西原古墳群	1992（平成4）年	瑞穂野
31	聖山公園遺跡・根古谷台遺跡（古代・中近世編）	2023（令和5）年	姿川
32	牛塚東遺跡	1993（平成5）年	雀宮
33	下原遺跡	1993（平成5）年	清原，姿川
34	天狗原遺跡	1994（平成6）年	雀宮
35	雷電山遺跡	1994（平成6）年	陽南
36	御城跡遺跡	1994（平成6）年	城山
37	久部愛宕塚古墳・谷口山古墳・御蔵山古墳	1995（平成7）年	平石，豊郷，本庁
38	飛山城跡第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ次確認調査概報－平成4～6年度－	1996（平成8）年	清原
39	城南3丁目遺跡	1996（平成8）年	横川
40	塚山古墳群Ⅱ	1996（平成8）年	姿川
41	飛山城跡第Ⅳ次確認調査概報	1997（平成9）年	清原
42	多気城跡－林道東多気線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－	1997（平成9）年	城山
43	上野遺跡－推定東山道関連遺跡－	1998（平成10）年	平石
44	飛山城跡Ⅲ	1999（平成11）年	清原
45	長坂天王寺遺跡	2001（平成13）年	城山
46	西刑部古屋原遺跡	2002（平成14）年	瑞穂野
47	上神主・茂原官衙遺跡	2003（平成15）年	雀宮
48	塚山西古墳 塚山南古墳	2003（平成15）年	姿川
49	本村遺跡（弥生編）	2004（平成16）年	本庁
50	本村遺跡（中・近世編）	2005（平成17）年	本庁
51	刈沼東原遺跡－宇都宮テクノポリスセンター地区開発に伴う埋蔵文化財発掘調査－	2005（平成17）年	清原
52	前田遺跡上戸祭小学校東地区	2005（平成17）年	宝木
53	磯岡北遺跡	2005（平成17）年	横川

No	報告書名	報告年	地区
54	砂田遺跡	2005（平成17）年	横川
55	立野遺跡（A地区）	2005（平成17）年	雀宮
56	西下谷田遺跡－弥生・古墳時代前記編－	2006（平成18）年	雀宮
57	西下谷田遺跡－古代編Ⅰ－	2007（平成19）年	雀宮
58	本村古墳群・本村遺跡	2007（平成19）年	横川
59	西刑部西原遺跡	2007（平成19）年	瑞穂野
60	砂田姥沼遺跡	2007（平成19）年	横川
61	辻の内遺跡	2007（平成19）年	姿川
62	砂田姥沼遺跡（C区）	2008（平成20）年	横川
63	中島笹塚遺跡（A区）・西刑部西原遺跡（B区）	2008（平成20）年	雀宮，瑞穂野
64	砂田姥沼遺跡（B区）	2008（平成20）年	横川
65	西下谷田遺跡Ⅱ（古代編Ⅱ）	2006（平成18）年	雀宮
66	宇都宮城	2008（平成20）年	本庁
67	砂田姥沼遺跡（D区）	2008（平成20）年	横川
68	みずほの台遺跡群	2008（平成20）年	瑞穂野
69	みずほの台遺跡群Ⅱ	2008（平成20）年	瑞穂野
70	砂田姥沼遺跡（E区）	2008（平成20）年	横川
71	姿川第一小南遺跡	2008（平成20）年	姿川
72	大日塚古墳	2008（平成20）年	雀宮
73	みずほの台遺跡群Ⅲ	2008（平成20）年	瑞穂野
74	竹下遺跡 第Ⅷ次調査	2010（平成22）年	清原
75	平出免の内台遺跡	2010（平成22）年	平石
76	西刑部西原遺跡（E区）	2010（平成22）年	瑞穂野
77	八幡山古墳群 1号墳・大塚古墳群	2011（平成23）年	本庁，宝木
78	笹塚古墳	2012（平成24）年	雀宮
79	多気城跡Ⅱ・岡本城跡	2012（平成24）年	城山，河内
80	針ヶ谷新田遺跡	2013（平成25）年	雀宮
81	西の内遺跡	2013（平成25）年	姿川
82	北の前遺跡	2013（平成25）年	宝木
83	砂田姥沼遺跡（F区）	2013（平成25）年	横川
84	茂原北原遺跡（B区）	2013（平成25）年	雀宮
85	竹下遺跡（第Ⅸ次調査）	2014（平成26）年	清原
86	西刑部西原遺跡（F区）	2014（平成26）年	瑞穂野
87	大塚古墳群（B区）	2014（平成26）年	宝木
88	西刑部西原遺跡（H区）	2015（平成27）年	瑞穂野
89	西刑部西原遺跡（G区）	2015（平成27）年	瑞穂野
90	宇都宮城跡－平成24年度・平成25年度調査－	2015（平成27）年	本庁

No	報告書名	報告年	地区
91	茂原北原遺跡（C区）	2015（平成27）年	雀宮
92	上神主・茂原官衙遺跡Ⅱ	2015（平成27）年	雀宮
93	中島笹塚遺跡（B区）	2015（平成27）年	雀宮
94	おしめ尽遺跡	2016（平成28）年	陽南
95	二軒屋遺跡・芋内遺跡	2016（平成28）年	雀宮
96	北の前遺跡（C区）	2016（平成28）年	宝木
97	北の前遺跡（D区）	2016（平成28）年	宝木
98	溜西南遺跡	2017（平成29）年	雀宮
99	上神主・茂原官衙遺跡・茂原向原遺跡 - 北関東自動車道側道建設に伴う発掘調査 -	2017（平成29）年	雀宮, 上三川町
100	根古谷台遺跡（縄文時代編）	2018（平成30）年	姿川
101	平出免の内台遺跡（第2次調査）	2018（平成30）年	平石
102	茂原北原遺跡（D区）	2018（平成30）年	雀宮
103	さるやま遺跡	2018（平成30）年	横川
104	瓦塚24号墳	2018（平成30）年	豊郷
105	北若松原遺跡・若松原南遺跡	2019（令和元）年	雀宮
106	西刑部西原遺跡（J区）	2020（令和2）年	瑞穂野
107	溜西遺跡	2020（令和2）年	雀宮
108	割田遺跡	2020（令和2）年	城山
109	おしめ尽遺跡（C区）	2021（令和3）年	陽南
110	鳥井戸遺跡	2021（令和3）年	清原
111	宇都宮城跡（令和3年度調査）	2021（令和3）年	本庁
112	下西原遺跡	2023（令和5）年	清原
113	下桑島西原南遺跡	2023（令和5）年	瑞穂野
114	姿川第一小南遺跡（第1・2次調査）	2023（令和5）年	姿川
115	小屋原遺跡Ⅰ	2023（令和5）年	瑞穂野

（2）課題別一斉調査

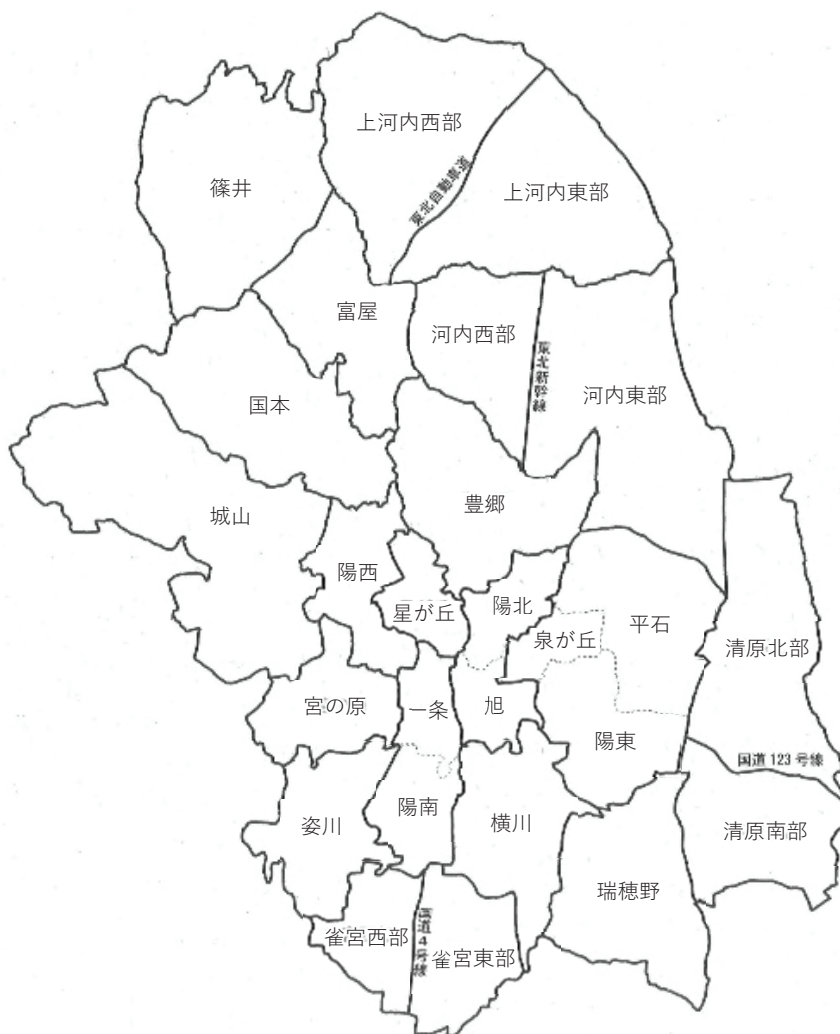
本市では、市独自の制度として1967(昭和42)年に「文化財調査員制度」を創設しており、教育委員会に任命された「文化財調査員」が市内の歴史文化資源調査を行っている。

2023(令和5)年3月時点の調査員の定員は22名、任期は2年であり、22の担当区域に各1名ずつ配置されている。

文化財調査員は、市内に所在する歴史文化資源の発見と調査、指定文化財の現況確認調査を行うとともに、特定のテーマを設定し、一斉調査を行っている。本市では、この調査を「課題別一斉調査」と呼んでいる。これまでに実施した課題別一斉調査を次頁に示す。

■文化財調査員担当区域一覧

	担当区域
1	一条・陽南
2	旭・陽北
3	陽西
4	星が丘
5	陽東・平石泉が丘
6	宮の原
7	清原北部
8	清原南部
9	横川
10	瑞穂野
11	豊郷
12	国本
13	城山
14	富屋
15	篠井
16	姿川
17	雀宮東部
18	雀宮西部
19	上河内東部
20	上河内西部
21	河内東部
22	河内西部



■文化財調査員による課題別一斉調査一覧

No	調査名	調査年
1	宇都宮の民俗	1976（昭和51）年度
2	宇都宮の民家と屋並	1977（昭和52）年度
3	宇都宮の手仕事	1978（昭和53）年度
4	宇都宮のいしぶみ	1979（昭和54）年度
5	宇都宮の名木	1980（昭和55）年度
6	宇都宮の民話	1981（昭和56）年度
7	宇都宮の祭りと芸能	1982（昭和57）年度
8	宇都宮の古道	1983（昭和58）年度
9	宇都宮の絵馬	1984（昭和59）年度
10	宇都宮の旧跡	1985（昭和60）～1986（昭和61）年度
11	宇都宮の農具	1987（昭和62）年度

12	宇都宮の金属工芸	1988（昭和 63）年度
13	宇都宮の民間信仰	1989（昭和 64/平成元）～1990（平成 2）年度
14	第 2 次名木調査	1991（平成 3）年度
15	第 2 次民家調査	1992（平成 4）年度
16	先人墓所	1993（平成 5）～1994（平成 6）年度
17	宇都宮の石造建造物	1995（平成 7）年度
18	宇都宮市近代遺産調査	1996（平成 8）年度
19	宇都宮の神社調査	1997（平成 9）～1998（平成 10）年度
20	宇都宮市戦災記録保存事業	1999（平成 11）～2000（平成 12）年度
21	宇都宮の近代化遺産	2001（平成 13）年度
22	宇都宮の年中行事	2002（平成 14）～2003（平成 15）年度
23	宇都宮の堂宇・仏像調査	2004（平成 16）～2006（平成 18）年度
24	宇都宮の神輿・宇都宮の祭礼	2007（平成 19）～2008（平成 20）年度
25	宇都宮の近世以前の土木遺産調査	2009（平成 21）～2010（平成 22）年度
26	有形文化財の震災被害調査	2011（平成 23）年度
27	文化財表示板調査	2012（平成 24）年度
28	第 2 次石造建造物調査	2013（平成 25）～2014（平成 26）年度
29	道路関連遺産調査	2015（平成 27）年度
30	寺社等における大谷石石造物調査	2016（平成 28）年度
31	道路関連遺産調査	2017（平成 29）～2018（平成 30）年度
32	第 2 次絵馬	2019（平成 31/令和元）～2020（令和 2）年度

（3）その他の調査

その他に、天然記念物関連の調査や、根古谷台遺跡、飛山城跡、旧篠原家住宅、大谷の景観など、主要な歴史文化資源について各種調査や計画作成を行っている。また、とびやま歴史体験館での企画展において、各回のテーマに応じた市民向けの分かりやすい解説冊子を発行している。

■その他の調査及び報告書等一覧

No		調査名	発行年
1	自然	宇都宮市所在指定天然記念物 現況調査報告書	1984（昭和 59）年
2		宇都宮市指定天然記念物調査報告書 - 昆虫 -	1993（平成 5）年
3		宇都宮市の水辺の生物 I - 池沼・湧水・湿地 -	1996（平成 8）年
4	根古谷台遺跡	聖山公園内「遺跡の広場（根古谷台遺跡）」 - 保存整備基本構想及び同保存整備地区の遺跡概要 -	1988（昭和 63）年
5		聖山公園内「遺跡の広場」保存整備事業基本計画報告書	1988（昭和 63）年
6		よみがえる太古 うつのみや遺跡の広場 - 史跡根古谷台遺跡保存整備事業報告書 -	1992（平成 4）年
7		よみがえる太古 うつのみや遺跡の広場 - 根古谷台遺跡 -	1991（平成 3）年

No		調査名	発行年
8	飛山城関連	史跡飛山城跡保存整備構想及び同城跡に関する基礎資料	1987(昭和62)年
9		史跡飛山城跡保存整備基本計画	1988(昭和63)年
10		史跡公園「飛山城跡」整備基本計画	1999(平成11)年
11		史跡公園「飛山城跡」整備事業に係る自然環境調査報告書	1996(平成8)年
12		シンポジウム古代国家とのろし - 宇都宮市飛山城跡発見の烽跡をめぐって -	1996(平成8)年
13	旧篠原家住宅	旧篠原家住宅保存調査報告書	1996(平成8)年
14		旧篠原家住宅保存修理工事報告書	2000(平成12)年
15		旧篠原家住宅文庫蔵保存整備工事報告書	2004(平成16)年
16	表示板	宇都宮の軌跡 (宇都宮市文化財表示板設置事業報告第1集)	1997(平成9)年
17		宇都宮の軌跡 改訂版 城下町宇都宮を訪ねて (宇都宮市文化財表示板設置事業報告第2集)	1999(平成11)年
18	大谷	「大谷の景観」調査報告書	2004(平成16)年
19		大谷の文化的景観の保存・活用事業報告書	2006(平成18)年
20		石のまち大谷の文化的景観保存計画報告書	2008(平成20)年
21	—	宇都宮市 屋台・天棚等調査報告書	1997(平成9)年
22	—	うつのみやの空襲	2001(平成13)年
23	—	上神主・茂原官衙遺跡保存整備基本構想	2006(平成18)年
24	—	宇都宮城のあゆみ	2007(平成19)年
25	とびやま歴史体験館 企画展	【第1回】栃木の城シリーズ① 宇都宮氏一族の城	2005(平成17)年
26		【第2回】中世下野の三都物語 ～宇都宮・足利・小山～	2006(平成18)年
27		【第3回】栃木の城シリーズ② 下野南部の城	2006(平成18)年
28		【第4回】宇都宮氏を支えた人・物・金	2007(平成19)年
29		【第5回】栃木の城シリーズ③ 下野北部の城	2007(平成19)年
30		【第6回】烽と東山道	2008(平成20)年
31		【第7回】栃木の城シリーズ④ 日立西部と下野南東部の城	2008(平成20)年
32		【第8回】東国中世の建物を考える	2009(平成21)年
33		【第9回】栃木の城シリーズ⑤ 東国戦国期の石積・石垣の城	2009(平成21)年
34		【第10回】鬼怒川流域に花開く縄文文化	2010(平成22)年
35		【第11回】栃木の城シリーズ⑥ 下野北西部の城	2010(平成22)年
36		【第12回】古墳時代の幕開け	2011(平成23)年
37		【第13回】栃木の城シリーズ⑦ 鬼怒川流域の中世城館跡	2011(平成23)年
38		【第14回】笹塚古墳とその時代	2012(平成24)年
39		【第15回】栃木の城シリーズ⑧ 掘り出された宇都宮城跡	2012(平成24)年
40		【第16回】うつのみやのハコワ大集合	2013(平成25)年
41		【第17回】栃木の城シリーズ⑨ 下野の近世城郭	2013(平成25)年
42		【第18回】竹下浅間山古墳とその時代	2014(平成26)年
43		【第19回】百人一首ゆかりの宇都宮頼綱とその時代	2014(平成26)年

No	調査名	発行年
44	【第 20 回】文字資料から見た宇都宮の古代	2015（平成 27）年
45	【第 21 回】上神主・茂原官衙遺跡とその時代	2016（平成 28）年
46	【第 22 回】栃木の城シリーズ⑩出土品から探る中世下野の茶文化	2016（平成 28）年
47	【第 23 回】見て学ぶ!地図で知る宇都宮の歴史	2017（平成 29）年
48	【第 24 回】「宇都宮の成立を探索Ⅰ 豪族の出現と居館」	2018（平成 30）年
49	【第 25 回】「宇都宮の成立を探索Ⅱ 古墳時代の終焉と河内郡の成立」	2019（令和元）年
50	【第 26 回】「宇都宮の成立を探索Ⅲ 中世都市宇都宮」	2020（令和 2）年
51	【第 27 回】「宇都宮の成立を探索Ⅳ 中世宇都宮の城と村落－近年の調査事例を中心に－」	2021（令和 3）年
52	【第 28 回】「宇都宮の成立を探索Ⅴ 中世宇都宮の人々の祈り」	2022（令和 4）年
53	【第 29 回】「鎌倉殿と宇都宮氏」	2022（令和 4）年
54	【第 30 回】「宇都宮の成立を探索Ⅵ 徳川幕府の成立と宇都宮」	2023（令和 5）年

2. 歴史文化資源に関する取組

(1) 行政の取組

①歴史文化資源の修復に係る資材の確保・保護

本市では、2023(令和5)年3月に「若竹の杜 若山農場」が「ふるさと文化財の森」に設定され、竹を材種とする初めての設定地となった。

「ふるさと文化財の森」とは、文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び研修林である。文化財建造物を修理し、後世に伝えていくために必要な、木材や檜皮、茅、漆などの資材を確保すると共に、修理用資材を通じた歴史文化資源の保護への理解を深めることを目的としている。

竹は、古来より身近な素材であり、日本各地に非常に多くの種類が分布している。文化財建造物には主にマダケやモウソウチクが使用され、民家の屋根や土壁の下地、茶室や数寄屋では化粧材に使用されている。

■概要

材種	名称	所在地	所有者	範囲
竹	若竹の杜 若山農場	栃木県宇都宮市宝木本町	個人	11.75 ha

②普及啓発

本市では、生涯学習や学校教育に関わる取組として、宇都宮市文化財ボランティア協議会会員の案内による文化財めぐりや、学校へ伝統文化の保存団体や継承者を講師として派遣しての体験活動等を行っている。また、情報発信や普及啓発に関わる取組として、ホームページ「宇都宮の歴史と文化財」の運営やメールマガジンの配信を行っている。

■市による主な歴史文化資源活用事業一覧

	名称	概要
1	文化財めぐり	<p>【主旨，経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化意識と郷土への愛着を一層深めてもらうことを目的として実施 ・文化都市推進課の事業として年 5 回実施。少なくとも 1995（平成 7）年より継続 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回 30 人前後が参加。延べ 240 人程度 ・宇都宮市文化財ボランティア協議会会員が案内 ・コース設定，資料作成も，文化都市推進課と文化財ボランティアとが協力して作成
2	歴史と文化財ボランティアガイド養成講座	<p>【主旨，経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財解説ボランティアを養成することにより，歴史文化資源の解説を通じて，市民の歴史文化資源への理解と愛着を深め，市民主体の文化財保護・啓発活動を推進することを目的 ・2002（平成 14）年より継続 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全 10 回のカリキュラム。講話 2 回，現地学習 7 回，現地解説練習 1 回 ・指導者は，宇都宮市文化財ボランティア協議会会員 ・対象は，市内在住者または宇都宮市文化財ボランティア協議会会員で，講座修了後，文化財めぐり等の解説ボランティアとして活動する意思のある人 ・毎年 20 名募集
3	伝統文化フェスティバル	<p>【主旨，経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の伝統文化を実演・紹介することにより，市民がふるさと宇都宮を身近に感じるひと時を創出し，特に若い世代への普及啓発を行うことを目的。 ・伝統文化継承団体・継承者が一堂に会し，市内各地の伝統文化を発表し合うことで，地域内のふれあいおよび地域間の交流を促進する。 ・2006 年（平成 18）年より継続。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月～11 月のいずれか 1 日，ろまんちっく村
4	宮っ子伝統文化体験教室	<p>【主旨，経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の中で，伝統文化を取り入れた活動に取り組んでいる学校を対象に，伝統文化の保存団体または継承者を講師として派遣し，児童に伝統文化を体験させる活動。 ・2010（平成 22）年より継続。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の 1 コマ～複数コマを利用して実施。 ・民話語り，獅子舞，おはやし，ふくべの絵付け，きぶなの絵付け，ねぎみそ饅頭作り，小麦饅頭作り 等
5	歴史と文化財活用ネットワーク事業 （ホームページ運営）	<p>【内容，経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2004（平成 16）年 12 月より，ホームページ「宇都宮の歴史と文化財」提供開始。 ・2010（平成 22）年 8 月より，メールマガジン配信。（週 1 回配信） ・2019（令和元）年 12 月ホームページリニューアル ・2020（令和 2）年 4 月よりInstagramで情報発信（週 1 回配信） <p>【コンテンツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財めぐり，講演会などの開催案内 ・所管施設の催し物案内（企画展，イベント） ・指定文化財の公開情報（仏像の開帳，屋台の巡行） ・伝統文化，伝統行事の情報（獅子舞，神楽の奉納） ・発掘調査の現地説明会の案内 等

(2) 民間の取組

本市には、歴史文化資源の保存や継承を目的とした保存会・愛護会が現時点で 89 団体結成され、それぞれが守る歴史文化資源に深い愛情と熱意をもって積極的な活動を実施している。市ではこれらの団体に対し、活動費の補助を行っている。また、団体間のネットワークを図るため、2007(平成 19)年に伝統文化連絡協議会が結成され、伝統文化の周知啓発や後継者育成に励んでいる。

■有形文化財の保存・活用に関わる民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	建造物	特定非営利活動法人 雀宮まちづくりプロジェクト	市民遺産「旧仮本陣芦谷家建物・高麗門」の保存団体であり、歴史・文化、地域福祉、スポーツ、社会教育活動等の諸活動を通じて雀宮地区のまちづくりを推進する。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
2	建造物	宇都宮雨情会	市民遺産「野口雨情旧居」の保存団体であり、雨情が亡くなるまでの約 1 年間、家族とともに過ごした住まいである「野口雨情旧居」の管理を所有者と協力して行っている。毎年、「雨情まつり」を開催し、旧居や碑の案内を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
3	歴史資料	エソジマモチ保存会	市民遺産「伝統作物エソジマモチ（江曾島糯）とその歴史をつなぐ「老農篠崎功績碑」」の保存団体であり、水利の不便な畑地でも栽培できるよう江曾島町で独自に開発された農作物品種であるエソシマモチとエソシマモチを作り出した篠崎重五郎の碑を継承している。	宇都宮市民遺産認定団体（資源型）
4	工芸品	伝馬町屋台保存会	市指定文化財「屋台」の保存団体であり、現在は、数年おきに、宮まつりの際に組み立てられ、市内に繰り出すなど、巡行を行っている。	活動費補助金登録団体

■民俗文化財の保存・活用に関わる民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	有形の民俗文化財	宮のにぎわい 山車復活プロジェクト	市民遺産「新石町火焰太鼓山車、南新町桃太郎山車」の保存団体であり、山車は江戸時代から続く菊水祭で巡行する本市の歴史的経緯を象徴するもので、申請者や西原地区の住民が一体となって巡行を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
2	有形の民俗文化財	海道町天棚保存会	市民遺産「海道町天棚」の保存団体であり、地区の行事にあわせ、天棚の保存継承及び周知啓発に向けた活動を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
3	有形の民俗文化財	仁良塚自治会	市民遺産「仁良塚の彫刻屋台」の保存団体であり、仁良塚地区の行事や小学校の校外学習などで屋台の披露を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
4	無形の民俗文化財	埴田睦会	市民遺産「旧埴田村からの伝統的行事「おかりや」」の保存団体であり、江戸時代に村の鎮守であった須賀神社の祭（現在の天王祭）の期間中に、神輿を置く仮の社殿（御仮舎）を設置し、6日5晩守る行事である「おかりや」を、旧埴田村に関係する 14 自治会町民と協力して行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
5	無形の民俗文化財	智賀都神社例大祭付け祭り実行委員会	市民遺産「徳次郎智賀都神社例大祭付け祭り」の保存団体であり、3年に一度、7月最終土曜日に、徳次郎六カ郷（西根・田中・門前・上町・下町・中町自治会）の 6 台の屋台が巡行する「徳次郎智賀都神社例大祭付け祭り」を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）

	種別	活動団体名	活動内容	備考
6	無形の民俗文化財	智賀都神社冬渡祭行事保存会	市民遺産「徳次郎智賀都神社冬渡祭行事」の保存団体であり、江戸時代から続く「徳次郎智賀都神社冬渡行事」に際して、地域住民が一体となり注連縄つくりを行い、12月14日に、家内安全、無病息災を願い神輿渡御を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
7	無形の民俗文化財	田野伝統年中行事保存会	市民遺産「田野町の八坂神社天王祭花屋台巡行行事と伝統年中行事」の保存団体であり、八坂神社天王祭屋台巡行をはじめとする田野町に残る11の伝統行事を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
8	無形の民俗文化財	悟理道自治会	市民遺産「悟理道の歴史をつなぐ伝統行事と神輿」の保存団体であり、毎年11月に悟理道まつりを行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
9	無形の民俗文化財	岩本自治会	市民遺産「岩本観音と地域の伝統行事」の保存団体であり、毎年1月のどんど焼き、3月の雷電神社祭梵天作成・奉納、8月の生駒神社祭を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
10	無形の民俗文化財	上戸祭自治会連合会	市民遺産「旧上戸祭村の伝統行事」の保存団体であり、上戸祭地域内にある薬師堂と高麗神社で江戸時代から五穀豊穡・疫病退散などを祈念し行っている年間4種類（祈念祭、はなまつり、天王祭、献穀祭）の行事を守っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
11	無形の民俗文化財	東大堀むらづくり推進協議会	市民遺産「東大堀の伝統行事「辻切り」」の保存団体であり、注連の輪を祈願者の中央に積み、参加者全員で願い事をし、一年間の無病息災と家内安全を祈願している。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
12	無形の民俗文化財	ふくべ洞（ふくべ細工）	本市の伝統工芸品である「ふくべ細工」や「黄ぶな」を製作しており、地域や学校での体験活動を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
13	無形の民俗文化財	野州てんまり 宇都宮てまり舎	本市の伝統工芸品である「野州てんまり」を製作している団体であり、市民向けの体験活動を実施している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
14	無形の民俗文化財	ぞうり・アミ	本市の生活文化を伝える工芸品「布ぞうり」や「ミニぞうり」を製作している団体であり、地域や学校での体験活動を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
15	無形の民俗文化財	福井染工場（印染め）	本市の生活文化を伝える工芸品「印染め」を製作している団体であり、イベント等で市民に向けた展示会を毎年行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
16	無形の民俗文化財	小野崎太鼓店	本市の伝統工芸品である「和太鼓」を制作しており、ミニ太鼓作りなど地域や学校での体験活動を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
17	無形の民俗文化財	アサヒクッキングスクール	本市に伝わる伝統食（しもつかれ等）の伝承に向けた活動を行っており、イベント等で市民に向けた試食会を毎年行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
18	無形の民俗文化財	小松東雲流今泉駅東子どもお囃子連	本市に伝わるお囃子で宮祭りや伝統文化フェスティバル等のイベントで披露している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
19	無形の民俗文化財	中徳次郎屋台囃子会	本市に伝わるお囃子で宮祭りや伝統文化フェスティバル等のイベントで披露している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
20	無形の民俗文化財	宇都宮旧小門町吉兵衛流五段囃子保存会	本市に伝わるお囃子で宮祭りや伝統文化フェスティバル等のイベントで披露している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
21	無形の民俗文化財	新清流東谷囃子会	本市に伝わるお囃子で宮祭りや伝統文化フェスティバル等のイベントで披露している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
22	無形の民俗文化財	白澤囃子会	本市に伝わるお囃子で宮祭りや伝統文化フェスティバル等のイベントで披露している。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
23	無形の民俗文化財	栃木の民話がたり かまどの会	本市や栃木県にまつわる民話語りを行っており、地域や学校で公演を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
24	無形の民俗文化財	下野民話の会	本市や栃木県にまつわる民話語りを行っており、地域や学校で公演を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
25	無形の民俗文化財	野州かたりの会	本市や栃木県にまつわる民話語りを行っており、地域や学校で公演を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体

	種別	活動団体名	活動内容	備考
26	無形の民俗文化財	すみれ語りの会	本市や栃木県にまつわる民話語りを行っており、地域や学校で公演を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
27	無形の民俗文化財	民話語り 双葉の会	本市や栃木県にまつわる民話語りを行っており、地域や学校で公演を行っている。	宇都宮伝統文化連絡協議会加入団体
28	無形の民俗文化財	宗円獅子舞保存会	市指定文化財「宗円獅子舞」の保存団体であり、毎年2回新里町日枝神社および薬師堂へ舞を奉納。現在、地元の小学校で獅子舞の指導をするなど、後継者の育成に取り組んでいる。	活動費補助金登録団体
29	無形の民俗文化財	関堀獅子舞保存会	市指定文化財「関堀の獅子舞」の保存団体であり、紫宸殿獅子舞藤原角輔流を名乗り、毎年8月に獅子頭を奉納している。	活動費補助金登録団体
30	無形の民俗文化財	上横倉の獅子舞保存会	市指定文化財「上横倉の獅子舞」の保存団体であり、毎年8月15日に多藤神社に舞を奉納。また、富屋地区の文化祭でも演じる。現在、後継者の育成にあたっては、地域をあげて、子ども会を中心に熱心に行なっている。	宇都宮市民遺産認定団体 活動費補助金登録団体
31	無形の民俗文化財	飯山獅子舞保存会	市指定文化財「飯山の獅子舞」の保存団体であり、毎年8月15日に安蘇神社に舞を奉納している。また、篠井秋祭りにも参加し獅子舞を披露している。	活動費補助金登録団体
32	無形の民俗文化財	二荒山神社の神楽保存会	市指定文化財「二荒山神社の神楽」の保存団体であり、江戸系統に属す神社流の流れをくむ太々神楽で、毎年1・5・9月の28日に舞を奉納。舞も18種、舞面も40種と市内の神楽の中で最大の規模を誇っている。	活動費補助金登録団体
33	無形の民俗文化財	堀米の田楽舞保存会	市指定文化財「堀米の田楽舞」の保存団体であり、二荒山神社の春渡祭（おたりや・1月15日）、田舞祭（たまいさい・5月15日）、冬渡祭（おたりや・12月15日）に舞を奉納している。	活動費補助金登録団体
34	無形の民俗文化財	瓦谷の神楽保存会	市指定文化財「瓦谷の神楽」の保存団体であり、瓦谷の神楽は、江戸時代に京都から伝わったといわれる。毎年1月の第1日曜日に平野神社へ舞を奉納している。	活動費補助金登録団体
35	無形の民俗文化財	八坂神社の神楽保存会	市指定文化財「八坂神社の神楽」の保存団体であり、八坂神社の神楽は、出雲流神楽の流れをくむ太々神楽。毎年、2月の最終日曜日と11月23日に舞を奉納している。	活動費補助金登録団体
36	無形の民俗文化財	宇都宮鳶木遣り保存会	市指定文化財「宇都宮鳶木遣り」の保存団体であり、消防出初式、宮まつりなどで披露している。	活動費補助金登録団体
37	無形の民俗文化財	薬師堂保存会	市民遺産「神郷地区の薬師堂の伝統行事」の保存団体であり、毎年5月の花まつり、8月の薬師堂における宗円獅子舞の奉納を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）
38	有形の民俗文化財	徳次郎町屋台保存会	市指定文化財「徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台」の保存団体であり、智賀都神社例大祭は、現在3年に一度、7月の最終土曜日に開催。屋台は江戸時代末期から明治時代につくられた彫刻屋台。保存会ではお囃子の伝承など、後継者育成に取り組んでいる。	活動費補助金登録団体
39	有形の民俗文化財	石那田八坂神社天王祭保存会	市指定文化財「石那田八坂神社天王祭祭礼神輿並びに屋台・神楽獅子・猿田彦面・採物・衣装一式」の保存団体であり、石那田八坂神社天王祭付祭は、4年に一度行われ、屋台の繰り出しは7月の最終土曜日の夜に行なわれる。保存会では、各集落ごとに屋台の保存、お囃子の練習などを行なっている。	活動費補助金登録団体
40	無形の民俗文化財	天下一関白獅子舞保存会	栃木県指定文化財「関白獅子舞」の保存団体であり、毎年8月第一土曜日に関白山神社に舞を奉納している。	活動費補助金登録団体

	種別	活動団体名	活動内容	備考
41	無形の民俗文化財	天下一閔白流西組獅子舞保存会	市指定文化財「天下一閔白流御神獅子舞」の保存団体であり、毎年8月15日に白山神社に舞を奉納している。	活動費補助金登録団体
42	無形の民俗文化財	逆面獅子舞愛好会	市指定文化財「天下一閔白流神獅子」の保存団体であり、毎年8月15日に白山神社に舞を奉納している。	活動費補助金登録団体
43	有形の民俗文化財	白沢甲部彫刻屋台保存会	市指定文化財「白沢甲部彫刻屋台」の保存団体であり、5年に一度開催される宿場まつりで屋台を巡行している。	活動費補助金登録団体
44	有形の民俗文化財	白沢南自治会屋台保存会	市指定文化財「白沢甲部彫刻屋台」の保存団体であり、5年に一度開催される宿場まつりで屋台を巡行している。	活動費補助金登録団体
45	有形の民俗文化財	東組自治会山車保存会	市指定文化財「東組彫刻屋台」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
46	有形の民俗文化財	天王原彫刻屋台保存会	市指定文化財「天王原彫刻屋台」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
47	有形の民俗文化財	蓬萊町の彫刻屋台保存会	市指定文化財「蓬萊町の屋台」の保存団体であり、現在は、数年おきに、宮まつりの際に組み立てられ、市内に繰り出している。	活動費補助金登録団体
48	有形の民俗文化財	東下ヶ橋天棚保存会	市指定文化財「東下ヶ橋天棚」の保存団体であり、3年に一度7月末に天祭行事が行われている。	活動費補助金登録団体
49	有形の民俗文化財	上組天棚・天祭保存会	市指定文化財「上組天棚」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
50	有形の民俗文化財	本郷睦会神功皇后山車保存会	市指定文化財「本郷町の人形山車 附 墨書収納箱及び人形製作者名木札」の保存団体であり、数年おきに、宮まつりの際に組み立てられ、市内に繰り出している。	活動費補助金登録団体
51	有形の民俗文化財	西下ヶ橋山車保存会	市指定文化財「西下ヶ橋彫刻屋台」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
52	演劇・音楽・工芸技術等	篠井の金堀唄保存会	市指定文化財「篠井の金堀唄」の保存団体であり、江戸時代の篠井金山の抗夫たちの唄を今日に伝えている。	活動費補助金登録団体
53	有形の民俗文化財	西組彫刻屋台保存会	市指定文化財「西組彫刻屋台」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
54	有形の民俗文化財	古田天棚保存会	市指定文化財「古田天棚」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
55	有形の民俗文化財	和久天棚保存会	市指定文化財「和久天棚」の保存団体であり、維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体

■ 記念物の保存・活用に関わる民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	遺跡	おしどり塚愛護会	市指定文化財「おしどり塚」の保存団体であり、塚の維持、保存、周辺の清掃などの活動を行なっている。	活動費補助金登録団体
2	遺跡	長岡百穴愛護会	栃木県指定文化財「長岡百穴古墳」の保存団体であり、史跡の清掃・除草作業や駐車場の清掃を行なっている。	活動費補助金登録団体
3	遺跡	谷口山古墳愛護会	市指定文化財「谷口山古墳」の保存団体であり、史跡の清掃・除草活動を行っている。	活動費補助金登録団体
4	遺跡	下栗大塚古墳愛護会	市指定文化財「下栗大塚古墳」の保存団体であり、史跡の清掃・除草作業を行っている。	活動費補助金登録団体
5	遺跡	瓦塚古墳群愛護会	市指定文化財「瓦塚古墳」の保存団体であり、年に3～4回、清掃作業、遊歩道整備、案内板設置などの活動を行っている。11月上旬には、地元の中学校や自治会と連携した活動を行っている。	活動費補助金登録団体

	種別	活動団体名	活動内容	備考
6	遺跡	北山古墳群愛護会	市指定文化財「宮下古墳, 権現山古墳, 雷電山古墳」の保存団体であり, 地元の中学校と連携し史跡の清掃作業を行っている。	活動費補助金登録団体
7	遺跡	高麗神社古墳保存会	市指定文化財「高麗神社古墳」の保存団体であり, 史跡の維持管理を行っている。	活動費補助金登録団体
8	遺跡 動物・植物・地質 動物	竹下町文化財愛護会	竹下町にある市指定文化財の維持管理を目的とし結成。竹下浅間山古墳・ヒラギ・オオバボダイジュ周辺の除草清掃活動等を行っている。	活動費補助金登録団体
9	遺跡	稲荷古墳群愛護会	市指定文化財「稲荷古墳群」の保存団体であり, 稲荷古墳群を見学しやすくするため, 年に1回除草作業を行っている。	活動費補助金登録団体
10	遺跡	樋爪氏の墓愛護会	市指定文化財「樋爪氏の墓」の保存団体であり, 1・5・9月の19日, 年3回神社の例祭と同時に供養を行っている。また, 境内の清掃・除草作業を毎月随時行っている。	活動費補助金登録団体
11	遺跡	岡本城跡を整備する会	市指定文化財「岡本城跡」の保存団体であり, 岡本北小学校と連携し, 岡本城跡の清掃活動を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体 活動費補助金登録団体
12	遺跡	御蔵山古墳愛護会	市指定文化財「御蔵山古墳」の保存団体であり, 歩道の整備などの活動を行っている。	活動費補助金登録団体
13	動物・植物・地質 動物	旭町の大いちよう保存会	市指定文化財「旭町の大いちよう」の保存団体である。	活動費補助金登録団体
14	動物・植物・地質 動物	中鶴田の大フジ愛護会	市指定文化財「中鶴田の大フジ」の保存団体であり, 敷地内の除草作業を5月・8月に行なう。清掃作業は随時行い, 地元の中学校との共同作業も実施している。	活動費補助金登録団体
15	動物・植物・地質 動物	古賀志の孝子桜愛護会	市指定文化財・市民遺産「城山のシダレザクラ」の保存団体であり, 地域住民, 城西小PTA・児童が協力しあって, 地域のシンボルである「孝子桜」の保護活動を推進している。桜祭りの開催や, パンフレットの配布, 除草等を行っている。	活動費補助金登録団体 宇都宮市民遺産認定団体(資源型)
16	動物・植物・地質 動物	赤岩山のヒカゲツツジ保存会	市指定文化財「赤岩山のヒカゲツツジ群落」の保存団体である。	活動費補助金登録団体
17	動物・植物・地質 動物	姿川第一小のフジ愛護会	市指定文化財「姿川第一小のフジ」の保存団体であり, 地域の人々とともに校木としてのフジを育て守っていること, 児童・PTA・地域の人々が連携して活動している。	活動費補助金登録団体
18	動物・植物・地質 動物	高麗神社大杉保存会	市指定文化財「東芦沼神社大杉」の保存団体であり, 維持管理や周囲の清掃を行っている。	活動費補助金登録団体
19	動物・植物・地質 動物	上籠谷のフジを守る会	市指定文化財「上籠谷のフジ」の保存団体であり, 花が咲く5月には市民に公開している。花の剪定や除草など維持管理などを行っている。	活動費補助金登録団体
20	動物・植物・地質 動物	智賀都神社のケヤキ保存会	市指定文化財「けやき」の保存団体であり, 除草など維持管理などを行っている。	活動費補助金登録団体
21	動物・植物・地質 動物	鬼怒川クロコムラサキ愛護会	市指定文化財「クロコムラサキ及びその生息地」の保存団体であり, 指定地内の除草をおこなっている。また, 6月には地元の小中学生, 市民を対象とした観察会を行っている。	活動費補助金登録団体

	種別	活動団体名	活動内容	備考
22	動物・植物・地質鉱物	公益財団法人グリーントラストうつのみや	市民が身近にふれあい親しむことのできる良好な緑の環境を有する樹林地等を守り育てるための活動（グリーントラスト運動）を推進する。	関係団体

■ 伝統的建造物群の保存・活用に関わる民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	伝統的建造物群	奥州街道白澤宿の会	市民遺産「白沢宿のまちなみ」の保存団体であり、江戸時代の白沢宿の景観を感じさせ、各種団体が一体となり『宿場祭り』を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）

■ 埋蔵文化財の保存・活用に関わる民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	埋蔵文化財	細谷・上戸祭地域まちづくり協議会 細谷・上戸祭地域遺産保存活用等推進特別委員会	市民遺産「戸祭大塚古墳・大ジノ古墳群」の保存団体であり、古墳時代後期に造られた市内最大級の円墳・大塚古墳と、その周辺の9基の中小の円墳からなる大ジノ古墳群の下草刈り等の美化活動を行っている。	宇都宮市民遺産認定団体（総合型）

■ ボランティアガイドを専門とする民間団体一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	—	宇都宮市文化財ボランティア協議会	市内の文化財の案内（ガイド）を実施。文化財めぐりや歴史イベントで活躍している。	関係団体
2	—	一般社団法人うつのみやシティガイド協会	本市の名所やスポットを紹介するボランティアガイドを実施。大谷地域でのガイドも行っている。	関係団体

■ 施設の管理・運営に関わる民間団体等一覧

	種別	活動団体名	活動内容	備考
1	建造物	旧篠原家住宅保存会	国指定重要文化財「旧篠原家住宅」の指定管理団体であり、施設の解説や清掃などの活動。雛人形や五月人形の展示などを行なっている。	文化財展示施設
2	有形の民俗文化財	上河内民俗資料館	市内の民俗道具を展示している資料館を管理し、施設の運営、企画展の開催、解説当を行っている。	文化財展示施設
3	遺跡	NPO法人 飛山城跡愛護会	国指定史跡「飛山城跡」の指定管理団体であり、「飛山城跡及び周辺文化財・伝統芸能」の保護及び情報発信を目的とし結成。飛山城跡の維持管理・案内解説・関連イベント開催している。	文化財展示施設
4	遺跡	西山文化財愛護会	国指定史跡「根古谷台遺跡」にある「うつのみや遺跡の広場」の管理団体であり、資料館や復元建物の管理、清掃、解説等を行っている。	文化財展示施設
5	遺跡	宇都宮城址公園清明館歴史展示室	宇都宮城址公園にある清明館歴史展示室を管理し、施設の運営、企画展の開催、解説当を行っている。	文化財展示施設

3. 歴史文化資源に関するアンケート調査の概要

2023(令和5)年7月から8月にかけて、歴史文化資源の保存・活用に関するアンケートを実施した。対象は歴史文化資源に関連する取組を行っている90の民間団体であり、69団体から回答を得て回収率は76%だった。

以下にアンケート結果の概要を掲載する。なお、詳細は資料編に掲載する。

(1) 体制

- ・会員等の人数は、設立時もしくは20年前と比較して「ほぼ変わらない」「減っている」で88%を占めており、減少傾向にある。
- ・現在の会員等の平均年齢は「60代」と「70歳以上」で80%を占めており、会員等の高齢化が進んでいる。
- ・団体における後継者の育成について、「どちらかというに進んでいない」「進んでいない」で74%を占めており、後継者の育成に苦慮している団体が多い。
- ・団体が関わる歴史文化資源の保存・活用の課題として、「後継者不足」、「会員等の高齢化」、「会員等の減少」が合わせて62%を占めており、人材の確保が課題であると感じている団体が多い。
- ・後継者を育成するための具体的な取組としては、研修等による会員等へのフォローや、新規会員等募集のための普及啓発・勧誘活動が最も多く挙げられた。

(2) 活動

- ・活動日数は、設立時もしくは20年前と比較して「変わらない」「減っている」で89%を占めており、減少傾向にある。
- ・活動する上で市に支援してもらいたいこととして、「HPやSNSなどによる情報発信」が20%を占めており、より多くの人に活動に興味を持ってもらうための支援が望まれている。
- ・市全体の歴史文化資源の保存・活用のために必要だと思うこととして、「歴史文化資源の情報が地域で共有される」が16%を占めている。また、自由記述でも、情報発信・普及啓発に関する意見が最も多く挙げられており、市全体で歴史文化資源に関する情報が共有されている状態が必要だと考えられている。
- ・市全体の歴史文化資源の保存・活用のために必要だと思うこととして、「小・中学校との連携」が18%を占めている。また、自由記述でも、小・中学校での教育や、周辺との連携に関する意見が挙げられており、市全体で歴史文化資源を保存・活用していくための連携が必要だと考えられている。

(3) 財務

- ・団体が関わる歴史文化資源の保存・活用の課題として、「財政的に厳しい」が12%を占めており、財源の確保が課題であると感じている団体が多い。
- ・活動する上で市に支援してもらいたいこととして、「活動への補助金拡充」が32%を占めており、財源確保への支援が望まれている。
- ・市全体の歴史文化資源の保存・活用のために必要だと思うこととして、「修理・維持管理のための経費確保」が18%を占めており、市全体で民間団体の活動継続のための経費確保が必要だと考えられている。

(4) 施設

- ・団体が関わる歴史文化資源の保存・活用の課題として、自由記述では、保管施設の不足に関する意見が多く挙げられている。
- ・活動する上で市に支援してもらいたいこととして、自由記述では、歴史文化資源の保管施設の充実や、来訪者が使用する便益施設の設置・維持管理に関する意見が挙げられている。